

寺本沙也加<sup>1</sup>：2018年に沖縄県久米島に漂着した浮遊性軟体動物 5 種について

Sayaka TERAMOTO<sup>1</sup>：Five pelagic mollusc species drifted on Kumejima Island, Okinawa, Japan in 2018.

はじめに：久米島は、南西諸島の沖縄群島を構成する島の1つで、沖縄本島の西方約100kmに位置している。周囲はサンゴ礁に囲まれ、東岸には堡礁が発達し、ハテノ浜などの洲島列が成立している(中川・村上 1975)。付近に波風を遮るような大きな島が無いことや、黒潮の流域に位置していることなどから、海岸には漂着物が多く流れ着くことが知られている(沖縄県 2013)。しかし、久米島における浮遊性軟体動物の正確な記録はこれまで殆ど報告されていない。今回、久米島の海岸を調査し、5種の浮遊性軟体動物の漂着を確認したので報告する。

調査方法：2018年2月1日～12月31日において、週に2回以上、久米島の各海岸を歩き、浮遊性軟体動物の漂着を調査した。今回、調査を行ったのは、真謝、真泊港南東の浜、奥武島、イーフビーチ、島尻の浜、トクジム海岸、アーラ浜、シンリ浜、北原の石切り場、ミーフガー、シンバルの計11地点の海岸である(図1)。採集した標本は、軟体部が残っていない個体は洗浄後乾燥させて保管し、残っている個体は99%エタノールで固定し保存した。

*Janthina janthina* (Linnaeus, 1758) アサガオガイ (図2-1)

採集状況：真泊港南東の浜、トクジム海岸にて計22個体が採集された(表1)。

特徴：殻は軽くて脆く、殻上面は蒼白色、底面は紫色をしている。アサガオガイの中には、螺塔の低い型のほかに、螺塔の高いコシダカアサガオガイと呼ばれる型も含まれていた。

備考：今回の調査では、アサガオガイ科貝類の漂着が2月下旬から3月にかけて集中していた(表1)。また、島の南東部に位置する真泊港南東の浜において最も漂着回数が多かった。沖縄県の離島地域では、冬季に継続的な北東向きの季節風が吹く影響で、この時期に北～東向きの海岸において漂着物が多く確認されることが知られており(沖縄県 2013)、久米島においてもこの季節風がアサガオガイ科貝類の漂着に影響を及ぼした可能性が考えられる。

*Janthina globosa* Swainson, 1822 ルリガイ (図2-2)

採集状況：真泊港南東の浜にて計7個体が採集された(表1)。アサガオガイやヒメルリガイと比較すると、漂着する頻度は最も低かった。

特徴：殻は薄くて脆く、全体的に薄い紫色をしている。殻形は球状で、体層の割合が大きく、殻口は卵型に大きく開く。

*Janthina umbilicata* d'Orbigny, 1840 ヒメルリガイ (図2-3)

採集状況：真泊港南東の浜にて計40個体が打ち上げ採集された(表1)。漂着が確認されたアサガオガイ科の中では最も漂着する頻度が高く、漂着個体数も多かった。

特徴：殻は薄く小型で、全体的に濃紫色をしている。外唇には顕著な切れ込みがある。

*Spirula spirula* (Linnaeus, 1758) トグロコウイカ (図2-4a, 4b)

採集状況：2018年2月26日、沖縄県久米島町真泊港南東の浜にて1個体の死殻が打ち上げ採集された。

特徴：殻長は8.38mm、殻高6.20mm、殻幅4.31mmであり、胎殻は破損している。

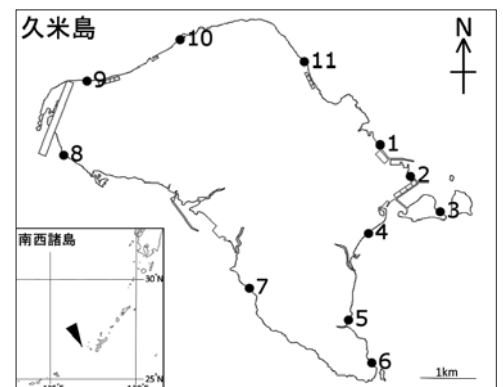


図1 久米島において調査を行った場所。  
1. 真謝. 2. 真泊港南東の浜. 3. 奥武島.  
4. イーフビーチ. 5. 島尻の浜.  
6. トクジム海岸. 7. アーラ浜.  
8. シンリ浜. 9. 北原の石切り場.  
10. ミーフガー. 11. シンバル.

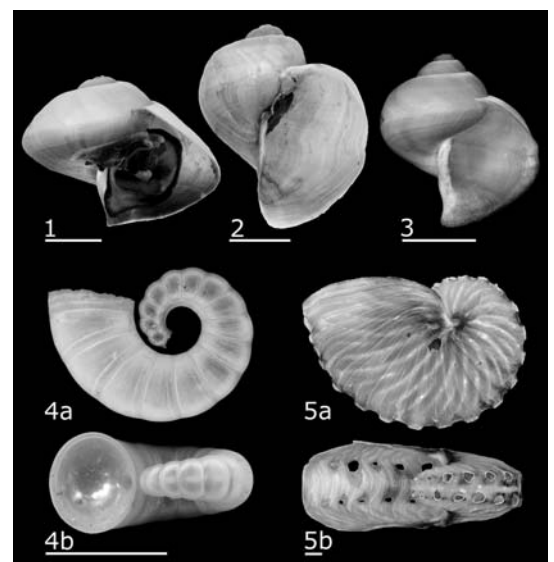


図2 採集された浮遊性軟体動物。スケールは5 mm。  
1. アサガオガイ *Janthina janthina* (Linnaeus, 1758).  
2. ルリガイ *Janthina globosa* Swainson, 1822.  
3. ヒメルリガイ *Janthina umbilicata* d'Orbigny, 1840.  
4 a-b. トグロコウイカ *Spirula spirula* (Linnaeus, 1758).  
5 a-b. タコブネ *Argonauta hians* Libhtfoot, 1758.

**備考：**本種は、世界中の熱帯中層域に分布する小型の頭足類である（窪寺 2017）。殻は、多数の気室を持つため、軟体部から離れると洋上を漂流する。西南太平洋のニューカレドニアやその近隣の島々には、本種の貝殻が大量に漂着することが知られており（福田・三上 1978）、日本でも、湊（1965）により和歌山県で初めて報告されて以来、現在までに12例（湊 1965, 湊 1978, 琉球大学資料館 2011, 盛口 2002, 池辺 2008, 立川 2004 河辺 2005, 池田 2009, 山田ほか 2010, 林 2012）が記録されている。沖縄県では、沖縄県石垣島磯辺（池辺 2008）、沖縄県石垣島川平石崎（琉球大学資料館 2011）、沖縄県西表島（盛口 2002）、において計3例の漂着記録があるが、久米島での正確な記録としては初めてと考えられる。

*Argonauta hians* Libhtfoot,

1758 タコブネ (図2-5a, 5b)

**採集状況：**2018年9月28日、沖縄県久米島町島尻の浜にて1個体の死殻が打ち上げ採集された。採集日は、非常に強い勢力の台風24号が接近しており、海上時化の影響によって漂着した可能性が考えられる。

**特徴：**殻長70.11mm, 殻高47.68mm, 殻幅25.57mm, 殻は摩耗が進み、竜骨突起が失われている。耳部は、無耳型である。

**備考：**本種は、日本近海の太平洋及び日本海側の暖流域の表層を浮遊して生活している頭足類の仲間である（窪寺 2017）。本種の沖縄県における記録は、沖縄県詳細産地不明（杉谷 1927）、沖縄県読谷村都屋沖（琉球大学資料館 2011）などがあるが、久米島での正確な記録としては初めてと考えられる。

**謝辞：**本研究を遂行するにあたって平成29年度漂着物学会基金研究助成金を使用したのもので、御礼申し上げる。

表1. 2018年2月1日~12月31日におけるアサガオガイ科の漂着記録 (採集日, 採集地, 個体数).

採集日	採集地 (図1参照)	アサガオガイ <i>Janthina janthina</i>	ルリガイ <i>Janthina globosa</i>	ヒメルリガイ <i>Janthina umbilicata</i>
2018/2/17	2	5		
2018/2/26	2	2		5
2018/2/28	2	3		9
2018/3/1	2	1		7
2018/3/2	2			1
2018/3/6	2	6		5
2018/3/7	2	1	5	2
2018/3/8	2			2
2018/3/9	2	1		1
2018/3/11	2		1	2
2018/3/14	2		1	
2018/3/20	2	1		
2018/3/23	2			4
2018/3/25	2			1
2018/3/28	6	1		
2018/9/28	2	1		
2018/9/28	2	1		
2018/10/31	6		1	

引用文献

福田芳生・三上 進. 1978. トグロコウイカの話. ちりぼたん, 10(4), 95-97.  
 林 重雄. 2012. 愛知県田原市にトグロコウイカの漂着. 漂着物学会誌 10: 37-38.  
 池辺進一. 2008. 池辺進一コレクション 貝類標本目録. 134pp. 和歌山県立博物館, 和歌山.  
 池田昭一. 2009. 内房にもトグロコウイカ漂着. ちりぼたん, 40(1), 53.  
 河辺訓受. 2005. トグロコウイカ和歌山県串本に2個体漂着. ちりぼたん, 36(3), 93-94.  
 沖縄県. 2013. 沖縄県における海岸漂着物の現状. 64pp. 沖縄県, 沖縄.  
 窪寺恒己. 2017. トグロコウイカ科, カイダコ科. In 奥谷喬司 (編著). 日本近海産貝類図鑑【第二版】. pp.473, 497, 1131, 1151. 東海大学出版部, 神奈川.  
 湊 宏. 1965. *Spirula spirula* (Linne) の漂着について. 南紀生物, 7(1), 28.  
 湊 宏. 1978. 南紀貝信 (V), トグロコウイカの漂着とフネアマガイの記録. ちりぼたん, 10(2), 38-39.  
 盛口 満. 2002. 僕は貝の夢を見る. pp148. アリス館, 東京.  
 中川久夫・村上道雄. 1975. 沖縄群島久米島の地質. 東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告. 75, 1-16.  
 名和 純. 2011. 琉球大学資料館(風樹館)多板綱・腹足綱・掘足綱・頭足綱標本目録. pp234. 琉球大学資料館(風樹館), 沖縄.  
 杉谷房雄. 1927. 沖縄県産貝類目録. 64pp. 沖縄県教育舎, 沖縄.  
 立川浩之. 2004. 千葉県鴨川市に漂着したトグロコウイカの死殻(コウイカ目:トグロコウイカ科). 南紀生物, 46(1), 63-64.  
 山田量崇・濱 直大・茨木 靖・中尾賢一. 2010. 四国におけるトグロコウイカの漂着記録. ちりぼたん, 40(3-4), 145-147.

(Received Sep. 3, 2019; accepted Nov. 1, 2019)

<sup>1</sup> 沖縄県海洋深層水研究所 〒901-3104 沖縄県島尻郡久米島町真謝500-1

<sup>1</sup> Okinawa Prefectural Deep Sea Water Research Center, 500-1 Maja, Kumejima, Okinawa 901-3104, Japan.